

# 女性の働き場所確保へ

女性職員が  
庁内チーム  
笠原建設を視察

糸魚川市

糸魚川市は人口減少対策の一環として今年4月、女性の働き場所確保対策を検討する女性職員による庁内プロジェクトチームを設置した。チーム委員と事務局の商工農林水産課企業支援室の10人は9日、同市能生の笠原建設（鈴木秀城社

長）を視察し、現場で働く女性の声を聞いた。

意見交換には同社の土木、建築部から女性の技術職員8人が参加した。19歳から40代まで大学卒業後のUターン者や市外出身者、結婚、出産後の再就職者などさまざま。「働きながらの一人暮らしは不安だった。甘えかもしれないけど親元から通える職場を選んだ」「子育てと仕事の両立は気持的に厳しい面があった」「結婚もしたいし、子どももほしい。やりがいを感じているので仕事も続けたい」とそれぞれ

場での女性専用トイレや休憩室の設置など同社の職場環境の改善も紹介された。

市のチーム委員は既婚、未婚者の30、40代が中心。市への要望なども含めて望ましい女性の働き方を考え、積極的に質問をした。委員長の有水嘉代・企画財政課課長補佐（50）は「糸魚川で楽しく生きいきと働いている女性がいる。会社、本人の努力があつてこそ。皆さんの意見と委員の体験を踏まえて施策につなげたい」と話した。

今後も企業視察や調査活動、会議を重ねて立案を進める。



土木や建築の現場で活躍する笠原建設の女性技術職員と意見交換

の思いを話した。現